

一般社団法人 日本イタリア協会



616-8047 京都市右京区花園宮ノ上町 51
TEL 075-466-5505 FAX 075-466-5510

1966年4月28日 創設、発足

日本とイタリアの架け橋としての活動、クラシック音楽と芸術を中心に音楽家や芸術家の育成、クラシック音楽の普及と振興、イタリア文化、歴史の研究、国際交流、及び、イタリアオペラを中心に我が国における声楽の普及と振興、イタリアベルカント発声の伝承とオペラ歌手育成を目的とする。

本協会は、イタリアの音楽芸術文化、クラシック音楽・芸術に関心を持ち、本協会の主旨目的に賛同する会員によって構成される。日伊両国間の文化の交流を促進し、併せて相互の理解と協力親善を計るために次の事業を行う。

- 日伊両国音楽家の親善・交流を図る。
- 日伊両国間の音楽に関する演奏会、講習会、研究会等を開催、または後援。
- わが国の秀れた音楽家育成のためにイタリア留学に送るための指導援助。
- 毎年「イタリア声楽コンコロソ」(イタリアオペラの声楽コンクール)、「コンコロソ MusicArte ムジカアルテ」(クラシック音楽コンクール)の開催。及び「イタリアピアノコンコロソ」(ピアノコンクール)の開催。コンコロソ(コンクール)の優勝者をはじめとする、将来性のある優秀な受賞者や入選者をイタリア国立音楽院(授業料免除)へ推薦する。「日本代表」としてイタリア世界遺産国際フェスティバルへ出場推薦する
- 日伊両国間の音楽資料の収集や音楽事情の調査研究。
- イタリア各地の国立音楽院と提携し体験留学や特別演奏会の開催
- イタリア各市、または国立・公立機関と提携し国際交流イベント・クラシック音楽演奏会・芸術展覧会などの開催。
- 会の目的を達成するために必要な文化事業を開催。

創始者中川牧三(Mo.Makizo NAKAGAWA(明治35年)1902.12. 7.京都)による、大正時代から長年に亘るクラシック音楽活動業績を継続する形で、1966年4月28日「関西日伊音楽協会」の名称で発足。平成の称号と同時に平成元年「日本イタリア協会」と改称、現在に至る。初代副会長 朝比奈隆(指揮者)は、協会発足以来2001年12月29日逝去に至る迄、本協会の副会長を担う。初代役員のお多くは戦前からのクラシック音楽活動に参加し、日本を代表する音楽家。我が国に於けるクラシック音楽の草分けとして戦前より、オペラ公演・オーケストラ公演・日本における最初の合唱団創設(NHK 他)全国ラジオ放送、吹奏楽・映画界等、音楽と芸術文化の幅広い分野においての基盤作りと普及・振興・育成に貢献し、以後に及ぼした影響は大きい。現在はクラシック音楽界のレベル向上とベルカントの普及運動を柱にイタリアと日本における相互文化の紹介、国際交流、アーティストの活動を助け育成に尽力。

①「イタリア声楽コンクール」(日本イタリア協会・毎日新聞社共催/文化庁・NHK・イタリア大使館・毎日放送後援) <イタリアオペラ 声楽コンクール>

1970年、イタリアベルカントオペラ歌手の登竜門として「イタリア声楽コンクール」(イタリアオペラ声楽コンクール)を創設。わが国の声楽レベルを世界的な水準へ導くことを目標に、声楽コンクールとしては世界でも例を見ない留学支援事業を永年に亘って実施。国内に於けるイタリア・ベルカントオペラのコンクールとして高い水準の審査レベルを保つ。コンクールの優勝者2名(年齢別2部門)については、創始以来永年に亘ってイタリアの国立音楽院(授業料免除)、ミラノスカラ座歌手養成所などへ推薦。賞金として留学資金を援助。それ以外の受賞者・入選者などイタリア留学を希望する将来性のある優秀な者を次々と国立音楽院へ推薦。歴史に残る大歌手の元へ直接紹介するなどグレードの高い留学体験ができるよう、1930年来のイタリアとの古い縁や友情、交流を生かして支援。

〔主旨〕

イタリアは五線譜の生まれた国、ピアノ、ヴァイオリン、オペラなどクラシック音楽・洋楽器の生まれた国、声楽において究極の技であるベルカント唱法をわが国に伝えるため、正統な技術を受け継ぐ継承者育成のために若い素質に恵まれた人々を選び、ベルカントの本場イタリアへ送り、厳しい修練の中で伝統ある技巧と芸術精神を学んでもらうと云うもの。永年に亘り確固たる主旨のもと、イタリアの名門国立音楽院や巨匠の元へ多くの日本人を導き、古い歴史と由緒正しい芸術の国、イタリアの芸術観や文化、技術、知識を修得してもらい、わが国の文化向上と国際力の向上に努める。

〔表彰〕

ミラノ大賞(26歳まで) 留学資金100万円(第41回～) / 200万円「松下電器賞」(~第40回)

シエナ大賞(35歳まで) 留学資金100万円(第41回～) / 200万円「中川牧三賞」(~第40回)

テノール特賞 10万円 両部門を通じて秀れたテノールに贈られるもの。

ソプラノ特賞10万円 両部門を通じて秀れたソプラノに贈られるもの。

金賞 両部門を通じて秀れた素質をもつ人に贈られるもの。

イタリア大使杯 両部門を通じて将来性のある秀れた人に贈られるもの。

〔特典〕

両大賞の受賞者は、ミラノ・ヴェルディ国立音楽院、シエナ・ギジアーナ国立音楽院、ボローニャ・マルティーニ国立音楽院、ヴェネツィア・ベネデットマルチェッロ国立音楽院をはじめとするイタリア国立音楽院(いずれも授業料免除)へ推薦する。

②「イタリアピアノコンクール」(日本イタリア協会・毎日新聞社共催/文化庁・NHK・イタリア大使館・毎日放送後援)〈ピアノコンクール〉

多方からの要望に応え 2004 年、「イタリアピアノコンクール」(ピアノコンクール)を創設。イタリア声楽コンクール(イタリアオペラ声楽コンクール)と同様、東京、大阪、名古屋などにおいて各予選を開催。コンクール(ピアノコンクール)の優勝者2名(年齢別2部門)については、イタリアの国立音楽院へ(授業料免除)推薦すると共に留学資金を援助。それ以外の者でもイタリア留学を希望する将来性のある優秀な者は国立音楽院へ推薦する。

〔表彰〕

ボローニャ大賞 100万円(留学資金)「松下電器賞」

ヴェネツィア大賞 100万円(留学資金)「松下電器賞」

金 賞 両部門を通じて、秀れた素質をもつ人に贈られるもの。

ジュニア特賞 10万円 18歳以下の特に優れたマテリアルを持つ人に贈られるもの。

五線譜はイタリアのグイード・ダレッツォによって生み出され、

ピアノ(正式にはピアノフォルテ)は 1709 年にイタリア人のチェンバロ作家バルトロメオ・クリストフォーリによって世界で初めて作られた。イタリアではベルカントの美しい自然の発声が重んぜられるのと同様に、ピアノ(ピアノフォルテ)についても美しい繊細な音色を極めることがまず重んぜられる。ピアノ発祥の国、イタリアならではの伝統ある演奏術と幅広い音楽性を学んでもらい高いレベルの音楽家・ピアニストの育成を目的とする。

③特別講習会・セミナー・各種演奏会

我が国のクラシック音楽家が世界の巨匠と直接接触できる活動を昭和初期より半世紀以上に亘り実行。世界で超一流と云われた「巨匠」をいち早くからわが国へ続々と招聘し、彼らの卓越した技巧や芸術観を直接伝授するためにわが国で初めての公開レッスン、講習会、演奏会、研修会等を数多く開催。また、これまで数えきれない多くの若いクラシック音楽家をイタリアへ伴い、現地において講習会、演奏会、研究会等を開催。レベルの高い講習会を永年に亘って催してきた当方の活動はわが国のみならず、ヨーロッパでもよく知られている。

—代表的な講習会—

「マリオ・デル・モナコ」特別声楽講座 於イタリア(1978年～1982年) マニン宮殿・UDINE

世紀の名テナーと呼ばれた巨匠故マリオ・デル・モナコの特別声楽講座をヴィットーリオ・ヴェネツィアのマニン宮殿で開催。旧知の親友中川牧三会長への厚い親愛の情から彼が発案したもので、日本人のみを対象にした特別な講習会であった。雲上のオペラ歌手・巨匠マリオ・デル・モナコによる夢の講習会は当時ヨーロッパでも前代未聞のもので、その噂を聞きつけた欧米のオペラ歌手らがウィーンやドイツ、フランス等から数多く駆けつけて集まり、聴講だけでも是非参加させてほしいと殺到した。ヨーロッパの楽壇を驚愕させたこの講習会は大きな反響を呼び、彼が亡くなる 1982 年までの間5年間連続して開催され、いずれも日本人を対象に催された格別のものであった。

「レナータ・テバルディ 特別声楽講座」オペラ歌手・特別公開レッスン(日本初全国各地)

「ジュリエッタ・シミオナート 特別声楽講座」オペラ歌手・特別公開レッスン(日本初全国各地)

「ジーノ・ベーキ 特別声楽講座」オペラ歌手・特別公開レッスン・セミナー(日本初全国各地)

「カルロ・ベルゴンツィ・テノールリサイタル」(日本初・全国各地)オペラ歌手 piano ピアノ伴奏 ヴィンチェンツォ・スカレーラ(両氏共初来日)

ガブリエッラ・トゥッチ・ソプラノリサイタル(日本初全国各地)オペラ歌手

ガブリエッラ・トゥッチ オペラ歌手・特別声楽講座 特別公開レッスン・セミナー(日本初全国各地)

オペラ歌手、巨匠らによる演奏会、公開レッスンを東京、大阪、名古屋、福岡、長崎をはじめとする主要都市に於いて連続して開催。特に「レナータ・テバルディ」や「ジュリエッタ・シミオナート」による日本初の公開レッスンは大反響を呼び、イタリアの歴史的バリトン「ジーノ・ベーキ」氏による特別講習会は5年間毎年連続して行なわれた。

カルロ・ベルゴンツィ(初来日)／PIANO 伴奏 ヴィンチェンツォ・スカレーラ(初来日)、スカラ座やメトロポリタンで活躍した、ジョルジョ・ロールミ(オペラ歌手・バリトン)の来日公演は毎年連続 30 年以上、全国各地にて開催。

日本で初めての公立(京都市立)オーケストラとして、マエストロ・ナカガワが創設した京都市交響楽団指揮者にイタリアより主任指揮者としてヴェルニツィ(元トリノ立歌劇場首席指揮者)を招き多数公演、日本人歌手やクラシック音楽家のための演奏会開催多数。

ガブリエラ・トゥッチらによる全国各地での特別リサイタル(併せて公開レッスンとマスタークラスも開催)は聴衆を魅了し話題を呼んだ。近年(2007年～2008年)では、マルチェッラ・レアーレ(名ソプラノ・新国立劇場最高コーディネーター)アルベルト・クピード(新国立劇場の連続オペラ公演にて日本に大イタリアオペラブームを巻き起こした名テノール)やエウジェーニア・ラッティ(スカラ座で活躍したソプラノ)、ヴィルマ・ヴェルノッキ(スカラ座で活躍したソプラノ)、マウリツィオ・グラッツィアーニ(テノール)らによるセミナーを、東京・大阪・イタリア(ミラノ近郊・ボローニャ)などで開催。

マグダ・オリヴェーロ オペラ歌手・声楽マスタークラス 2012年7月21～22日、ミラノ・クザーニ宮殿。

アルベルト・クピード オペラ歌手・アカデミア 2012年7月29～8月3日、サンタマルゲリータ・ヴィラ・ドゥラッツォ。

[ピアノ・バイオリン・オーケストラ・コンチェルト]...戦前より名指揮者を招いて吹奏楽や管弦楽の演奏会を数多く開催。わが国の主要オーケストラへイタリアはじめ海外の名指揮者を紹介推薦するなどの支援も行なった。

[室内楽・コンチェルト]...戦前より数多くの弦楽アンサンブルの演奏会を開催し、バロック音楽のはしりとしても活動。永年の間、大阪、京都等で毎週開催し、バロック音楽を紹介した。当時の多くのファンを集めその心をつかんだ。

[オペラ公演・声楽演奏会]...昭和初期から数多く催してきた各種演奏会や、戦後まもなく近畿各地におい

て続々と催した数々の関西初オペラ公演によって関西オペラ界の基盤を作った。当時のトップクラスのアーティストらの指導育成に傾注しベルカントの正統な発声の伝授に力を注いだ。これらの催しに参加したアーティストは数知れない。

・講習会／演奏会／研究会に於いて招聘した主なる人物

オペラ歌手・20世紀を代表する大プリマドンナ 故レナータ・テバルディ(ソプラノ)／オペラ歌手・20世紀を代表する大テノール 故マリオ・デル・モナコ(世紀の名テナー)／オペラ歌手・20世紀を代表する大バリトン 故ジーノ・ベーキ(イタリアを代表する名バリトン・発声の神様)／オペラ歌手・20世紀を代表するメゾソプラノ ジュリエッタ・シミオナート(メゾソプラノの女王)／オペラ歌手・戦前を代表するスカラ座で活躍した名テノール 故アレッシンドロ・ジリアーニ(名テナー)／オペラ歌手・20世紀を代表するテノールディ・ステファノ(名テナー)／故ジョルジョ・ファバレット(オペラ音楽と室内楽の大家)／カルロ・ベルゴンツィ(名テナー)／ガブリエラ・トゥッチ(名ソプラノ)／ミランダ・フェラーロ(名テナー)／マルチェロ・アッバード(元ミラノ国立音楽院学長・ミラノ・スカラ座最高顧問・ピアニスト)／ルチアーノ・アルベルティ(元シエナ国立音楽院学長・演出家・元ドニゼッティ国立歌劇場およびプッチーニ国立歌劇場総監督)／故フルヴィオ・ヴェルニッツィ(元トリノ王立歌劇場管弦楽団常任指揮者)／故エフレム・カサグランデ(元ヴェローナ国立音楽院院長・ピアニスト)／カルミーネ・カッリージ(ボローニャ国立音楽院学長、ボローニャ歌劇場顧問)／フランチェスコ・ボレッリ、ミラノ国立音楽院総裁／ジョルジョ・ロールミ(バリトン)／パオロ・トロンコン(ヴェネト州国立音楽院総裁、ヴィチエンツァ国立音楽院、カステルフランコ国立音楽院学長、)／アルベルト・クピード(テノール)

イレーン・デューク(ローザ・ポンセル財団総裁・評論家)／イーゴル・チチャーゴフ(指揮者)／エウジェニオ・フルロッチェ(ピアニスト)／マウリツィオ・グラッツィアーニ(テノール)／ヴァンチェンツォ・スカレーラ(ピアニスト)／ステファノ・セッコ(テノール)／ジュゼッペ・コスタンツォ(テノール)／ジョヴァンニ・グルナーリ(テノール)／キース・オルセン(テノール)／ルカ・グラッシ(バリトン)／ヴィルマ・ヴェルノッキ(ソプラノ・ボローニャ国立音楽院主任教授)／カティア・ローヴァ(メゾ・ソプラノ)／ダンテ・マッツォーラ(指揮者) ほか

* 上記マエストゥリ達については、(昭和30年代のNHKイタリアオペラの主要ソリストとして来日した有名歌手らを含め、民間による招聘としてはいずれも初来日。)招聘は1度のみならず、複数回来日2～6回以上に亘るがほとんどで、三十数回以上毎年続けて来日したマエストロもある。

④ガーラ・コンサートシリーズ ※「日伊交歓ゴールデン・ガーラ・コンサート」

正しい声楽の発声、歌唱法、演技はイタリアに於いて長い年月をかけて完成されたもので、一朝一夕に捉えられるものではない。その奥深い至芸と伝統を受け継ぐイタリア国立ミラノ・スカラ座はじめ世界の歌劇場で活躍する歌手陣を招聘し、わが国のベテラン歌手から若手歌手迄一同に共演し、プロヴァにも力を入れて直にその伝統の技法を学ぶ機会となるもの。わが国の若い声楽家にとっては得がたい体験となり長年留学しても簡単に得られない貴重なチャンスともなっている。1969年から続くこのコンサートは毎年催され、日本全国各地でベルカントの魅力を聴衆に紹介し賞賛を賜りつつベルカントの振興に努めている。

その他のガーラ・コンサート

- ニューイヤー・ゴールデン・ガーラ・コンサート
- Mo.Makizo NAKAGAWA 生誕一世紀祝賀記念ガーラ・コンサート
- Mo.Makizo NAKAGAWA 追悼コンサート
- Mo.Makizo NAKAGAWA 記念ゴールデン・ガーラ・コンサート
- 日伊交歓ガーラ・コンサート シリーズ
- ラテンの情熱・グラン・パッショーネ シリーズ
- マリオ・デル・モナコ特別追悼演奏会
- トスティの夕べ シリーズ 他

⑤海外への推薦留学

イタリアへの留学を希望する素質人格共に優秀と認められた者を、イタリアの国立音楽院(いずれも授業料免除)へ推薦。音楽(声楽・ピアノ・弦)を中心に、絵画、彫刻、建築などのジャンルについても個人的な弟子入り留学を希望する者に対しては、それぞれの適合したマエストロのもとへ直接紹介や推薦を行い支援。

⑥日伊両国間の音楽情報の提供

イタリアはじめ欧米で開催される国際コンクールへの参加を希望する者へ、情報の提供や推薦、引率。日伊両国間を中心に我が国のアーティストによる内外での演奏活動及び研究会活動への支援。日伊両国間の音楽資料の収集や音楽事情の調査研究。

⑦交流関係

イタリア・ミラノ・ヴェルディ国立音楽院／シエナ・キジアーナ国立音楽院／ローマ・サンタ・チェチリア国立音楽院／ボローニャ・マルティーニ国立音楽院／ペーザロ・ロッシーニ国立音楽院／ピアチェンツァ国立音楽院ほかイタリア各地に於ける国立音楽院。英国ロンドン・王立音楽学校／フランス・パリ国立音楽院／スイス国際音楽コンクール連盟／イタリア国立ミラノ・スカラ座／ブッセート市・ヴェルディコンクール／ルッカ市・プッチーニコンクール及びプッチーニ歌劇場／ベルガモ市ドニゼッティ歌劇場／フィレンツェ歌劇場／トレヴィーゾ市・コンクール及びトレヴィーゾ歌劇場／ペーザロ歌劇場／ピアチェンツァ歌劇場／カステル・フランコ市・マリオ・デル・モナコ国際コンクール／ミラノ市・カルーソー国際コンクール／レカナーティ市・ジリー国際コンクール／コセンツァ市・国際声楽コンクール／スペイン・バルセロナ・マリア・カナルス国際コンクール／アメリカ・ニューヨーク・ローザ・ボンセル国際コンクール／アメリカ・ローザ・ボンセル財団／アメリカ・サリバン財団／イタリア・バッサノ市・ティートゴッビ国際声楽コンクール／サン・マリーノ共和国／レナータ・テバルディ財団／サンマリーノ・レナータ・テバルディ国際声楽コンクール／イタリア・ミラノ市マグダ・オリヴェーロ・国際声楽コンクールほか。

⑧結び

本協会の国際交流の軌跡と実績は、いち早い時代から芸術振興の窓口としてのつとめを果たしてきた。芸術と文化の国イタリアの最高レベルの音楽家や芸術家と古くから幅広く交流し、次々と招聘して日本の文化や伝統を伝え互いに理解と親交を深めてきた。これまでにわが国の多くの若手音楽家や芸術家をイタリアの国立音楽院、国立養成所、または大マエストロの元へも個人的に送り、長年に亘る育成事業に尽力。古くから海外の多くのコンクールへわが国の有望な音楽家を導き崇高な芸術精神のもと世界に通ずるレベルの高い芸術家育成のためにつとめる。

Mo.中川牧三 略歴

1902年 京都市中京区に生まれる。

1910年よりヴァイオリンを学び、

1920年より声楽をモンテ・カルロ王立劇場で活躍したソプラノ、オルガ・カラスロワ氏に、和声を菅原明朗氏に、指揮を近衛秀麿氏に師事。

1930年(昭和5年、恩師、近衛秀麿氏(筆頭家族・貴族院終身議員、当時の内閣総理大臣近衛文麿氏の実弟、新響「現在のN響」の創始者)に後見人として伴われドイツ、イタリア、アメリカへと留学。ベルリン国立音楽院に留学。指揮法をオット・クレンペラー、作曲をヒンデミット、ヴァイオリンをカール・フレッシュに師事、声楽をワイセンボーンに師事。

後にミラノに移り、国立音楽院と国立スカラ座歌手養成所へ。いずれも初めての日本人学生として入学。発声をアルフレッド・チェッキに師事。1932年(昭和7年)ピアチェンツァ王立歌劇場に初めての日本人歌手としてデビュー。トスカニーニ夫妻はじめ、ラベル、マスカーニ、ジョルダナーとの華やかな交流は、当時の社交界の注目と関心を集めた。

音楽学とスパルティートに師事したマルティニ教授とともに渡米、州立南カリフォルニア大学へ入学。音楽学とオペラ史を本格的に研究。ハリウッド映画の名門「MGM」会長夫妻の抜擢を受け、当時超一流シアターと云われたハリウッド随一のチャイニーズ・グロマン劇場にて、初めての日本人としてリサイタルを開催。演奏活動の最中、1935年(昭和10年)、戦雲急を告げ、やむなく急遽帰国。

帰国後、学校教育や音楽活動と相まって、国民運動として全日本合唱連盟や全日本吹奏楽連盟など数々の音楽活動団体を創設、音楽普及運動に傾注。当時京都で隆盛を極めた日本映画界、教育界の枢軸的な指導者として活躍。

第二次世界大戦勃発後、「日独伊三国同盟」に於いて唯一人の陸軍総代表として上海で日独伊国際外交を担当。中市派遣軍総司令部参謀付幕僚として上海陸軍報道部も兼務。スポークスマンを努めるかたわら文化担当将校も兼務。当時最高水準の西欧人ソリストらによって編成された「上海市交響楽団」やロシアンバレエ」を自ら指揮し、総監督も兼務。音楽家として、総プロデューサーとして、文化担当将校として、あらゆる面から文化活動を支援した。近衛秀麿、山田耕筰、朝比奈隆、服部良一、李香蘭、白井鉄造、小牧正英はじめ、八十数名の音楽家や文学者、舞踊家などを次々と上海へ招聘。「東洋のパリ」「東洋の魔都」と称された上海で文化運動を推進。戦後の日本文化にも大きな影響を与えた。迫害を受けた多くのユダヤ人を人道保護し、騎士道を貫いた数々の功績や、戦渦の元、上海で繰り広げた国境を越えた平和活動が後の国際裁判軍事法廷にて西欧人らの証言によって次々と明らかにされ、話題となった。

終戦後まもなく、進駐軍と毎日新聞社の支援のもと、関西における最初の本格的なイタリアオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」を東フィルを招聘して上演。「パリアッチ」「リゴレット」「椿姫」「蝶々夫人」「オルフェオ(本邦初演)」「ルチア(本邦初演)」「アミーコ・フリッツ(本邦初演)」他、演出、指揮、翻訳、全てを自ら手がけて指揮指導し、京都、大阪、奈良、滋賀をはじめ近畿各地にて次々と上演。現在の関西のオペラの基礎を築いた。音楽教育と普及運動に傾注する傍ら、京都芸術大学、大阪音楽大学、大阪芸術大学、名古屋芸術大学、京都外国語大学・・・をはじめ、各地の大学やオーケストラ、音楽団体の創設に中心的存在とし

て関わった。

日本とイタリアの文化交流の先駆者として、イタリアオペラに功労を遂げた第一人者として、イタリア政府から「カヴァリエレ・ウフィチャーレ勲章」を叙勲。

1959年 G・ヴェルディ生誕の地、イタリア・ブッセート市主催「ヴェルディ国際音楽コンクール」へ初の邦人審査員として招かれ運営委員及び審査員を 24 年間務めわが国の音楽家をイタリアへ導く基礎を築いた。併せてプッチーニコン、マリア・カナルスコン、ヴェローナコン、ジリーコン、マリオ・デル・モナココン、トゥーティ・ダルモンテコン、トレヴィーゾコン、ローザ・ポンセルコン、コセンツァコン、セニガリアコン、ストゥレーザコン、ベッリーニコンほか、数々の国際コンクールへいずれも最初の日本人審査員として多年に亘って招かれ実行委員並びに審査員を 2007 年春(104 歳)まで、生涯現役で務めた。

国内では「日本音楽コンクール」(毎日新聞社・NHK 主催)全部門の運営委員及び審査員を 38 年間努め、「全日本学生音楽コンクール」(毎日新聞社主催)を創始、毎日新聞社の文化活動に数多く携わり援助した。

本年第 45 回を迎える「イタリア音楽コンコルソ」(日本イタリア協会・毎日新聞社主催)を 1969 年より創始主催、審査委員長。コンコルソ出身者のみならず数多くの志望者の後見人となり、イタリアの主要国立音楽院やスカラ座歌手養成所等の国立機関へ半世紀に亘って導いた。

イタリアはじめ欧米各国より、黄金時代の巨匠といわれた演奏家や教育者、学者らを、戦後まもなくいち早くから次々と招聘。数多くの講習会や演奏会を内外で開催。

105 年に亘る生涯を音楽にかけたわが国の音楽会の巨匠・マエストロ・ナカガワの活動は「日本イタリア協会」に引き継がれている。

トゥーティ・ダルモンテ、ベンジミニャーノ・ジリー、ジーノ・ベーキ、ジョルジョ・ファバレット、レナータ・テバルディ、ジュリエッタ・シミオナート、ジョゼッペ・タッディ・・・をはじめ、多くの黄金時代の名巨匠らとの戦前からの深い親交は周知の通りで、殊に、世紀のテノールと呼ばれたマリオ・デル・モナコや名門ヴェルディコンクールを創始した名テノール・アレッサンドロ・ジリアーニとは、1930 年代イタリア留学時代からの同門の無二の親友でもあった。

2000 年「マルタ騎士勲章」授受

2001 年「マルタ・大騎士大使勲章」(グラン・アンバシャトーレ勲章)授受

2004 年 2 月と 4 月、101 歳世界最高齢の現役指揮者としてオーケストラを指揮。

2004 年 国際ソロプチミスト日本財団「千嘉代子賞」授受

2005 年 京都府文化賞「特別文化功労賞」授受

2005 年 文化庁長官表彰 授受

2005 年 イタリア政府より最高位勲章『連帯の星』「グランデ・ウフィチャーレ勲章」授受

2008 年 逝去後、天皇陛下の御裁下並びに閣議決定により「旭日小綬章」追贈授受

ヴィヴァルディ国際学会名誉会員、テバルディ財団最高顧問並びに特別名誉委員、

日本イタリア協会会長

実父は京都市葛野郡会議長を明治、大正に亘って努めた故中川源太郎。

実兄は京都府会議長、衆議院議員、日本遺族会創始者・初代会長の故中川源一郎。